

意見陳述書

2011年2月17日

私はリライアンスという会社が出した大船駅近くの大手化粧品会社への派遣募集の広告を見て応募し2003年3月から資生堂鎌倉工場で働きはじめました。

はじめはリライアンスという派遣会社で、のちにコラボレート、アンフィニと私たちの意思とは関係なく所属会社は交替していきましたが、鎌倉工場内での業務内容はまったく変わりませんでした。

働きはじめた頃は、所属担当は口紅でしたが、その日によって他担当の化粧水やチューブ、クリームなどの社員やパートさんのラインに手伝いに行かされる事もありました。

また、口紅検品の資格を取るために資生堂のパートさんに2週間の教育も受けました。

検品教育が合格した後、入社3カ月でラインリーダーになりました。

ラインリーダーになってからは、準備のために始業時間の1時間前には出勤するようになりました。

それは、資生堂からわたされる生産計画表の製品が、色の種類が多かったり、

複雑で手間のかかるものが一日に何種類もあって、難しくミスが出やすいものが多かったため、

その日の仕事をミスなく仕上げるためには準備に1時間は必要でした。

この間は必要な業務であるにもかかわらず無償で働きました。

難しい製品が流れる前日など、無事にミスなく生産で出来るのか心配で夜も眠れない事もありました。

それでも、私はこの仕事にやりがいがあったので何よりも仕事を優先して一生懸命尽くしてきました。

ところが、2009年4月13日に事業所管理者の野村さんと川村課長に呼び出され5月1日からラインリーダー降格し時給も3割カットすると一方的に言い渡されました。

私はショックで何を言われているのかよくわかりませんでした。

のちに解雇された池田さんと、何とかしなくてはならないと思い労働組合に相談に行き加入しました。そして私は5月28日木曜日に会社に対して組合に加入している事をファックスで伝えました。翌5月29日金曜日、事業所管理者の野村さんに年内までの契約をしているにもかかわらず、6月からの2カ月に短縮された契約書にサインを迫られましたが、組合に相談してから返事をする伝える、「わかりました。」と了解しました。そして、賃金のカットについては「今回は据え置きます」ともいわれました

また、この時、同じくサブリーダーを降格されて一緒に組合に入った人も、この場で労働組合に加入している事を初めて明らかにしました。その人も私と同じように「組合に相談してから返事をします」と伝えると、この日の夜に野村さんから自宅に電話が入り「本当に組合に加入したのですか？」と尋ねられ、「組合を通さなければまだ間に合います。このままだと僕の手から離れてしまいますよ。それでも組合を通して更新の話をするのですか？」と聞かれたそうです。その人は、それでも「組合を通します」と回答したところ、私とともに5月31日の日曜日に速達で「雇用契約終了通知」が送られて来たのです。

私とサブリーダーの2人は解雇の対象ではありませんでしたが、労働組合加入を会社に通知した直後に雇止めされてしまいました。何の予告もなく、あまりの突然のことだったのでロッカーの私物も取りに行けず、今もそのままです。

たった1枚の通知で人生が変わってしまいました。6年以上頑張ってきて、さらにその週の金曜日まで真面目に働いていた人間に、日曜の休み中に速達で「雇用契約終了通知」を送り付け、解雇することが許されるのでしょうか？

突然仕事が無くなってしまい、生活が立ち行かなくなってしまったのでハローワークに行きましたが会社が一方的に自己都合退社にしてしまったので失業手当が認められませんでした。それでも、なんとか事情を説明して3カ月だけ仮給付をもらう事ができました。

資生堂というブランドに誇りを持ってミスのないように頑張ってきたのに突然職場から放り出されてしまい、悔しくて許せない気持ちでいっぱいです。

1日でも早く職場に戻り働きたいです。

以上